

# アニマルハンドリングプログラムを終えて

2017 年度春季海外留学  
獣医保健看護学類 1 年 村山琴音

私は 3 月 10 日～31 日の今回のプログラムに参加した。私がこのプログラムに参加してみようと思った理由は大きく 3 つあった。

1 つ目は、このプログラムで一番多く触れることがあった「馬」が好きということだ。このプログラムの内容を最初に見たとき、これは参加するしかない。と思った。内容に書いてあった通り、3 週間のほとんどを馬と生活した。朝 7 時から Western Farm と呼ばれる厩舎に行き、馬の世話をする。餌やり、ブラッシング、厩舎の清掃、投薬など多くのことを体験させてもらった。早い英語、専門用語に最初は聞き取るのに苦労した。しかし、優しく教えてくださった学生たちのおかげで最後のほうはよく聞き取れるようになった。また、馬についてほとんど知識のなかった私だったが馬の種類や色や体格、病気なども理解できるようになった。馬と触れている時間は私にとって癒しでしかなかった。昔から動物が好きなのもあり、馬と毎日一緒に生活する学生たちが少しうらやましくも思えた。早朝からの作業はとても大変だったが、それ以上に自分の好きな馬について知ることができたことが何よりの学びだ。

2 つ目は、日本ではできないことをしたいという気持ちだった。日本では、獣医師資格のない者が動物たちの治療をすることは制限されている。しかし、このプログラムでは、自分の手で多くの動物の去勢・避妊手術、採血、除角を行うことができた。今まで、メスも鉗子も触ったことのなかった私にとって刺激でしかなかった。猫、豚、羊、ヤギ、牛。3 週間でした手術の数はとても多かったがどれも楽しくて面白かった。それだけではなく、馬の採血をさせてもらうことができた。最初はうまく血管に入れることができるか、きちんと採血できるか不安ではあったが Pre-vet の学生が優しく指導してくださったのおかげで無事に終わることができた。見たこともやったこともない手術は私にとってとても大きな財産になるだろう。

3 つ目は、海外に興味があったからだ。私はこの留学を経験するまで一度も海外に行ったことがなかった。興味はあったもののなかなか勇気が出なかったのだ。しかし、今回は動物にかかわる留学ということで興味が一層沸いた。日本と海外では動物に対しての価値観や扱いが少し異なる点がある。また日本よりも動物についての法律が重いということも少し知っていた。アメリカに住む人たちがどのように動物と暮らし、どのように向き合っているのか知りたくなったのだ。実習の後や、週末は多くの動物を扱う施設に連れて行ってもらうことができた。たくさんの施設や多くの人の話を聞く中で、「命を大切にする」という気持ちは世界共通なのだと感じとても幸せな気持ちになった。法律のことを前もって調べていたつもりではいたが現地に行き話を

聞くと、また違った観点から法律を理解していてとても勉強になった。

最後に、私はこの留学で多くのことを学びたくさんの人に出会えたことに感謝したい。なかなか英語が聞き取れなかったり、拙い英語を聞き取ってくれたり、日本の食べ物や文化に興味を持ってくれたり、いろんなところに連れて行ってってくれたり、本当にたくさんの人に出会うことができた。人の優しさや温かさに触れることのできたこの3週間は、私にとって大きな宝物になった。今回の留学で学んだこと、経験したこと、出会った人のことをいつまでも忘れずに生活していきたいと思う。

**Thank you for three weeks!!!!**

